

家庭学習応援だより

第1号

大洋小が開校し、間もなく1か月です。お子様は、新しい環境での生活に慣れてきたでしょうか。我々大人でも、新しい環境に慣れるまでには時間がかかります。しばらくは、お子様の心身の様子をよく観察いただければと思います。

さて、このお便りの趣旨は、学校と家庭が手を取り合って、子供の確かな学力を育成することです。子供たちの学力を向上させるためには、授業で学習したことと関連付けながら家庭学習をすることが大切です。また、「**子供の意欲と学習習慣**」、「**家庭の理解と協力**」、「**教師の指導力と熱意**」の3つの柱が学力向上のポイントだと言われています。保護者の皆様には「**家庭の理解と協力**」の部分ぜひお願いします。

もうすでにこのお便りの存在を知っているという保護者の皆様もいらっしゃると思います。以前と同じテーマでも、なるべく中身をアップデートしていこうと思いますし、同じような記事でも読み返してみると新たな発見があるかもしれません。引き続きお読みいただければと思います。

まずは宿題から始めよう



子供に家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、意図的に家庭学習の機会を作る必要があります。その1つの手立てが「宿題」です。宿題の良さは学校で学習した内容の理解を深めたり、学習することの充実感を味わったりできることです。このような経験を積み重ねていくことで、家庭での学習の習慣が身につく、学習への意欲が高まっていきます。そのためにも、宿題を家庭学習の習慣化のために利用してみてもはどうでしょうか。

学校から宿題が出されると、子供の宿題のはずなのに、なぜか親にまで「義務感」や「負担感」を感じてしまうことがありますね。前述しましたが、「(宿題を)うまく利用してやろう。」くらいのほうが、気が楽だと思います。

では、具体的にはどんな取り組みが考えられるでしょうか。よく言われるのが、「家庭学習ノート」の活用です。「家庭学習ノート」については、次号以降で触れたいと思います。

話を「宿題」に戻して、宿題は3つの類型に分けられます。普段は主に学校から「**一斉同一型**」の宿題が出されると思います。ただ、学力の定着の度合いは児童個々で異なるため、家庭では他の2種類のような**自主的な学習**が必要になるわけです。ご家庭では、ここに焦点を当てて取り組まれるのがよいと思います。お子様の得意部分をさらに伸ばすような家庭学習でもよいですし、苦手な部分を補充する家庭学習でもよいでしょう。いずれにしても、**家庭学習を習慣化させることが目的**なのですから、子供が無理なく続けられるのが大切です。

一斉同一型

同一の質と量の宿題を全員に

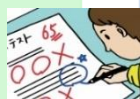
- ・漢字練習
- ・音読、暗唱
- ・計算問題の演習



一斉個別型

質や量を個人差に応じたもの

- ・語句の意味調べ
- ・個に応じたプリント
- ・AI型ドリル
- ・テストの間違い直し



自由選択型

宿題の例を示し、自分で選択

- ・興味のある本を読む
- ・新聞記事の切り抜きをする
- ・スポーツや楽器の練習
- ・苦手科目に取り組む

※ 家庭学習を効果的にする4つのポイントは、①生活のリズムを整え、②計画的に、③雰囲気大切に、④努力を認め励ます、です。

家庭学習をさらに充実させるポイント



学校では、子供が学習の楽しさを実感できる授業を展開できるよう努め、「家でも学習したい」という意欲をもたせるようにしたいと考えています。

よく、子供たちは「先生、昨日の授業でやった〇〇を、家でもやってみました。」「先生、お母さんと一緒にやってみたら△△ができるようになりました。」とか、「先生、お父さんに□□の授業でやった問題でしたら、できなかったんですよ。」などと、家庭での学びを話すことがあります。学校での学習が話題になっていることが感じられ、まさに、「学校の授業と家庭学習がつながった」場面といえます。

さて、こうしたつながりをもっと増やしていくために知っておきたい家庭での働きかけのポイントを紹介します。「これは！」と思うものをぜひご家庭でもお試しください。

「どうだった？」ではなく、具体的に質問する

- ・子供の思考力をきたえるには、親子でたくさん会話することが大切です。食卓でも「今日、学校どうだった？」と漠然とした質問ではなく、「どんなことを新しく習ったの？お母さんにも教えて。」など具体的な質問をすれば、会話も広がります。

ときには、子どもに選択権をゆだねる

- ・子供の思考力や表現力は、成功や失敗を重ね、試行錯誤しながら身につくものです。失敗しないよう、何でも先回りして支えてあげるよりも、親が一步引いてみて、子供が「自分でやりとげた」、「自分の力でできた」と思えるような見守り方をしてみてください。

「できない」ことを批判しない

- ・社会が複雑になり、価値観が多様化し、これまで正しいとされていたことが次々に入れ替わる社会において、一つの考えにこだわらず、できることを伸ばし、自信をつけることが社会を生きる支えになってくると思います。親が「こうあってほしい。」という理想をあまり押し付けず、お子様のありのままのよさを大切にしてください。

目指す家庭学習の姿



家庭学習を、「主体的な学習者」を育てる機会と考え、低学年から高学年へ、また小学校から中学校へと、子供が成長するにつれて、家庭学習の内容が、**宿題から自主学習(自分から進んで課題を見つけ、学ぶこと、または、自分で内容を探し、自分のために自分から進んで行う学習)**に移行していくことが理想といえます。中学生のお子様のお持ちの親御さんならお分かりかと思いますが、定期テストや実力テスト前に、親がつきっきりで学習を見る時間は小学生の時と比べ、格段に減っていることだと思います。また、親御さんご自身も学生時代はそうだったでしょう。つまり、学齢が上がれば子供は自立的に学習を進められるようにならなくてはなりません。高校入試まで、親が子供の隣で学習を教えるのは困難ですし、できれば避けたいことでしょう。

学校では意図的、計画的な学習指導を行っています。まずは、宿題をきっかけに家庭での学習の習慣化を図り、ご家庭と連携しながら、お子様の「**自ら考え、行動する力**」を育んでいきたいと考えています。

おわりに

「家庭学習応援だより」では、低学年、高学年のお子様をもつご家庭にかかわらず、家庭で役に立つ情報をできるだけ紹介していきたいと考えています。時には感想も含め、保護者の生の声をお聞かせいただくと幸いです。「先生、記事の内容があまり変わってないよ。」とか、「ほかのご家庭では、どんなこと(勉強)しているのかな？」などでも構いませんので、担当の川島までお伝えください。また、より満足いただけるよう、アンケートを行うことがあると思います。その際は、ご協力よろしくお願いします。